

にこりこー帯にぎわい会議 第3回 会議録

日時 平成29年3月17日(金) 15:00~17:00

場所 箕輪町文化センター 研修室1・2

参加者(敬称略)

委員 大槻智也、唐澤榮子、唐澤一美、木下深、栗原勇雄、黒木一郎、柴宮勇一、関幹子、増沢弘久、和田篤士 以上10名

(欠席 鮎澤進二、柴みずほ、唐澤良忠、齋藤浩介、田中健太)

事務局 白鳥副町長、産業振興課長 唐澤紀朗、道の駅建設推進担当 土岐産業振興課 未来農戦略係長 那須誠司 企画振興課長 中村克寛

傍聴者 なし(報道除く)

1 委員の委嘱(副町長→委員)

2 委員長あいさつ

3 委員自己紹介(木下委員、大槻委員)

4 協議事項

① 視察を踏まえての「にぎわい」のための提案について

(資料① にこりこー帯がにぎわうための、あなたの考え 集約版・全意見)
事前に委員から提出のあった意見を「にぎわいにつながるコンセプト(仮)」別に集約したものをもとに、提案者から説明、質疑応答。提案内容は資料のとおり、主な意見は以下のとおり。

○直売所ならでの強みが感じられる

- ・全国の直売所でのアンケートを見ても、8割のお客様が直売所に「新鮮、品揃え豊富、市価よりも安い」ことを期待している。強みがぶれないことが大切。
- ・スーパーや道の駅など類似施設がある中、わざわざ直売所に行く理由が必要だが、それは人間力ではないか。スーパーにはない対面販売、働いている人の対応が明るく親切、商品知識豊富で信用して購入できるスタッフ、名物的な存在感のある駅長など「人の質」が大切。体験もそれに付随する。品質は人質(じんしつ)。
- ・ライフスタイル、田舎の暮らし方、遊び方、楽しみ方を提案してはどうか。
- ・運営側はどこを向いて運営すればいいか、分からない。方針、コンセプト、ターゲットなど、何を誰に売るか、運営上の大テーマ、指針のよう

なものが欲しい。

- ・経営は黒字を目指すのか、赤字でもいいのか、はっきりしたほうがいい。
(公共施設と経営という運営上の二面性はあるにせよ)

○気軽に訪れたいくなる、また来たいくなる

- ・ものを買うこと、食べる以外でも、来たい理由をつくる。

○既存施設の有効活用

- ・飲食店をやりたい人は多い。加工所をやる気のある人にテナントで貸し出しては。

○他団体との協力（町から）

- ・JAとの関係、現時点ではリニューアルの方向性が固まっていないので相談する段階にないが、周辺果樹団地の活用という話もあり、運営主体の検討がいずれ出てくるので、話をしていくことになると思う。

○新たな価値を生み出す

公園は何かと規制が多いが、田舎のライフスタイルを楽しめる、制約のない公園が欲しい。

②協議事項の絞り込み

（事務局）

意見を集約し、委員の関心の重なる分野・施設等と、にぎわいのために考える方向性が明らかになってきた。そこで、今後の進め方として、今日議論したにぎわいのための意見をもとに、各施設個別の議論を始めていきたいと思う。

また、今ある施設の改良に加え、にぎわいを加速するための施設整備などの提案もいただいているが、それらの提案は各施設の改善と別に考えるのではなく、各施設がにぎわいを加速するための方策として位置づけてはどうか。

例えばにぎわいを作り出すのに、目の前の山並み景観を活かして集客を加速したい、という話が複数の施設で出てくるのであれば、景色を活かす施設整備という話になる。

施設別の議論を行ったうえで、横並びににこりこり一帯として見直し、提案としてまとめていくという方向でいかがか。

委員

個別に検討するうえでのテーマはどうするか。

例えば野菜を売るときに、ただ野菜を売るのであれば町内どこでも売っていて、直売所で売る必要はないと思うし、上手く売れる気がしない。あじーなどと競ってもしようがない。ここで野菜を売ることを通じて提供する価値は何かを決めないと、また同じものを作ってしまう。

委員

あじーななどほかの直売所に勝つために、ここは安心安全とか、健康を売りにした部分をコンセプトにして、直売所やたべりこなどを考えていってはどうか。

委員

そういうテーマをもう少し決めていってはどうか。トータルデザインというか。

委員

にぎわい会議は誰ににぎわってほしいのか。町長は町民と言っているが、それでは町民の中の「子育て世代」とか、一番誰ににぎわってほしいのかというターゲットを絞ると、迷った時の選択肢になる。一帯の大テーマを決めて、それから個々の施設に入っていく方がいい。

委員

にぎわい会議全体の、ターゲットをどうするか、ということ。

委員

話しているうちに違ってきてもいいが、まずスタートするのに、ここに向かっていきましょう、という方向性があつたほうがいい。

委員

例えば高齢者、子供世帯、福祉関係の3本柱とか。

委員

町民ではだめなのか。絞ってしまうと賑わわなくなるのではないか。

委員

こういう人達が来ないと賑わわない、という人を呼び込むということ。例えばあじーなは野菜を主体で売ってきたが、客層が高齢者中心で頭打ち。そこで子連れのママ達も来てくれるよう、改装して魚を売るようだ。にこりこは定年後の人たちが多い。

委員

そういう人たちはたくさん買ってくれる。若い人たちは小さくしか買わない。

委員

皆さんから出されているアイデアや提案が、何かの目的の手段であるようにしたい。「幸せ」でもいいし、「あたたかさ」でも。

コンサルとブランディングが一緒になっている。にぎわい会議自体がコンサルのようなものだが、こういうブランドを目指したいな、というものが欲しい。例えばディズニーランドは「幸せ (happiness)」としている。それに沿って食事も「幸せになる食事」「幸せになる盛り付け」、「幸せになるサービス」、「幸せになるあいさつ」など。これがスーパーの直売所と違うところとして出せるところ。

最近は声をかけて販売する、対面販売のようなことは少ないが、昔みたいな八百屋さんの売り方とか、よいのではないか。あたたかさとか、体温が伝わるとか。

先程から出ている言葉が「ホスピタリティ」。おもてなしのこと。例えば2回目に行ったホテルで社員が名前を覚えてくれているなどのこと。こういうのは、行政がかかわっているところでは見ない。

おもてなしをするために逆算して、どういうパッケージにするか、おもてなしするためにカフェではコーヒーに何をトッピングするのか、という取組をしていると、ホスピタリティに見合った値段を今度はこっちが決められるようになる。何を売るか、値段は手段であって、目的をつけていくこと。

委員

あそこの施設をどういうテーマで動くかということ。

委員

これを考えるのは全然お金がかからない。逆に予算がついてしまうと、こういうアイデアが出てこなくなる。予算をこなすことになってしまう。

委員

お客さんを迎えるのに、おもてなしは世界中でテーマ。

委員

セルフレジなどはその対極にある。例えば伊那食品では、おもてなしも、社員の幸せに最終的につなげる話になっている。こちらは、最終的には「農業者の幸せ」という話でいいのか。ただ物を作って、並べて、売る、ということでは通用しなくなってきたから、こういう会議があるという事だと思う。

委員

栗原さんの発言は、運営上のテーマという事でいいのか。

委員

そのとおり。会社で言うと、経営方針。そんなことを考えている直売所はどこにもないと思う。

事務局

町でこの会議を起こした時には、「行きたくなる場所へのステップアップ」「農の魅力のさらなる発信」ということで始めさせてもらった。

委員

目的をはっきりしたほうが、会議がばらばらにならない。唐沢店長、実際に店に勤めていて、現在の店の運営目的が分かってますか。

委員

最初から言ってますが、分かってません。私がさっきターゲットを絞るといったのもそのことで、「大テーマ」というか、向かう方向、ゴールがあったほうが

進みやすいと思う。どこへ進んでいけばいいのかわからないのが、店の問題だと思っている。

委員

それを探するために、この会議をやっているということ。おもてなしも一つの要因だが。最初にその話をするために絞ったほうがいいのか。

委員

大テーマではないが、到達点が必要と思う。

委員

先ほど発言のあった「町民が行きたくなる」でも全く構わない。これがもともとから設定されているのであれば、町民が行きたくなるためには、と考えられる。これをブレないテーマにして進んでいけばいいのではないか。

委員

にぎわうためにどうしたらいいか、というのが大テーマだと思っていたが、町民が行きたくなる、という町長の言葉がテーマでいいと思う。

委員

もう一回再確認した、ということでよいのではないか。

委員

町民に使ってもらえる、来てもらえる、という事を考えればいい。

木委員

これを、これから私達が取り組んでいくにぎわい会議の基本テーマにしようと思う。「町民が行きたくなる場所」。それに向かって色々なアイデアを出していくということ。こう決めると、次のことが考えやすい。

委員

そのための要因を改めてアイデアとして拾い出していくということか。

事務局

皆さんからの意見や関心、にぎわうための考え方などは今回出てきているので、これをもとに、いま議論のあった「町民が行きたくなる場所」という同じ方針で各施設個別の検討に入ってはどうか。

委員

向かう方向が分かれば、良いと思う。

委員

我々のキャッチフレーズ、「町民が行きたくなる場所」ということ。

事務局

次回4月にはこりこについて議論する。それにあたり、2時間の会議で多様な論点を議論しきるのが相当難しいことが予想され、前段で何人かの委員さんに

お集まりいただき、議論のたたき台を作ることをお願いしたい。
お願いする委員さんは、今回まとめた皆さんの意見をもとに、それを現場に落とし込む際に必要な知見をお持ちの方を、事務局で指名してお願いしたい。
(了承)

3 その他

①類似の道の駅の視察について

4月15日(土) 8:30 役場前集合 木曽方面の道の駅等 15:00迄に帰庁

②次回開催日時 4月21日(金) 15:00~17:00
場所 箕輪町役場2階 大会議室